

差別を許さない仲間づくり

部落解放同盟鳥取市協議会青年部の活動

部長

おくだ かずひと
奥田 一仁

わたしたち「部落解放同盟鳥取市協議会青年部」(以下、青年部)は、部落解放に向け活動をしている団体です。青年部は現在、十八歳から三十五歳くらいまでの同和地区の青年を中心に構成しています。部落差別をはじめとするあらゆる差別の撤廃のため、さらには真の民主主義社会を確立するために日夜活動しています。

最近では、韓国で開催された在日韓国・朝鮮人問題をそれぞれの立場から考えるフォーラムに参加しました。また、三十九年前におこった「狭山事件」についても学習を深め、市民団体と連携し、再審請求に向けた活動をしています。

発していることから、被差別の立場の高校生と積極的に関わっています。

同和教育のよすや、自分が今抱えている悩みや素朴な疑問を話し合っています。また、在日外国人の問題などについても理解を深めています。

部落出身者が、直接的に差別の現実と直面したり、不安になったりするときは、就職、恋愛、結婚など人生の節目のときだといわれています。私たち青年部は、そうした不安な気持ちをくみ取り、差別を許さない世の中をつくること、仲間づくりを進めています。

また、わたしたちはここ数年、学校現場で差別事件が多数発生していることから、被差別の立場の高校生と積極的に関わっています。

一昨年の十二月、ある学校で起きた差別落書き事件について高校生たちと話し合う機会がありました。その中で、人権問題を他人事と考えている同級生がいたり、自分たちが被差別の立場の思いをわかってくれない先生がいたりする不安で、悩んでいる高校生がいました。青年部では、その高校生を支えるとともに、悩みや思いを仲間と本音で語れる場を作っていくこと、昨年五月に「部落解放鳥取市高校友の会」(以下、高友)の結成を支援しました。

青年部も、この高友の取り組みに対して、定例会に参加するなど積極的に関わっています。また、今後の活動のリーダーとなる高校生の養成にも力を入れています。

部落出身者が、直接的に差別の現実と直面したり、不安になったりするときは、就職、恋愛、結婚など人生の節目のときだといわれています。私たち青年部は、そうした不安な気持ちをくみ取り、差別を許さない世の中をつくること、仲間づくりを進めています。

また、わたしたちはここ数年、学校現場で差別事件が多数発生していることから、被差別の立場の高校生と積極的に関わっています。

高友では、在日韓国人の高校生を含めて、現在約二十人が活動しています。毎月定例会では、それぞれの学校の

今年、「全国水平社」が創立して八十周年を迎えます。この創立大会で採択された、日本で最初の人権宣言と言われる「水平社宣言」をつくり上げたのは、若者たちでした。わたしたち青年部も、真の人権確立の世の中をめざして、多くの市民、団体と連携し、部落完全解放のために闘っていきたいと思います。

